

ひとつひとと通信は平川の分身がお客様のところへお届けに伺う。どう気持ちはあります。当然ですか無料です。

ひとつひとと通信

2021年4月20日発行

217号

ひとつひとと通信は
いつも流れていたまま。
いつもありがとう。

うたた寝しどうな、春らしい温かい季節となりました。こんなにちは！平川です。さて、今年もお花見は出来ませんでした。私はお花見は大好きなです。なぜなり幸せを感じる条件がそろっていけるから。家族、友人、自然、健康、

職場の教養



料理、お酒、自由、笑い。本当に大切なものは、無くして気づきます。その事にコロナは気づかせてくれました。来年こそはぜひ。では、今月もはりきっていきましょう。

購入の決め手

一般社団法人倫理研究所が毎月発行している朝礼用の冊子に「職場の教養」というのがあります。これは、社会人としての行動指針や職場の人間関係、

仕事のコツ、失敗への対処法、心の持ち方、時事の話題など、一日一話が掲載された冊子です。そこで今月号の4月号が

お手元にございましたら、ちょっと開いていただけますか？4月7日(水)の「購入の決め手」をお読み下さい。実はそこ

に出てくるHさんこそ、私のことなのです。このお詫びと通信208号に書いた

お詫びです。それを読まれた倫理研究所の方が、なんと採用して下さいました。嬉しいやら恥しいやら、本当にありがとうございました。この版画がこれです。20年前に購入しましたので、少々色あせていましたが、私に

「商品を売り方で売る」というのがあります。これに気づかせてくれた版画なのです。この版画との出会いは、私が起業をするきっかけとなりました。今でも大切に飾っています。

問題は現実より先に心で起る

先週の日曜日の午後のこと。久しぶりのんびりビールを飲みながら、映画でも見ようかな。と思っていたら、ちょうどその時です。階にいた妻から、「庭の草むしりを手伝って」と声が。一瞬「う」とためらった私は、気のない返事をして、しゃべしへ。午後4時から始めて、

私がアパートから帰ってくまのは、真夜中の12時です。ここにやっと事の重大さに気づきました。もう腕組みするしかありません。じわじわと日も沈み始め、

作業をしていました。30分ほどすると何度もノブをがたがたと。あれ？鍵がかかる。ピンボーン、ピンボーン。

何度もベルを押しても長男は出できません。「あ、まさか」と長男が庭にいる私たちに気づかず、鍵をかけてアルバイトへ行ってしまったのです。玄関から死角になるところにいたので分かりませんでした。妻に

「鍵持ってる？」「持たんよ」と。

「アーバイトに行つたみたい。鍵がかかって」と。妻に入れんとよ、「えー、うそ」とかの窓が開いていいかと、家の周りをグルグル調べますが、開いていません。

私たちには、自分たちの家に閉め出されたのです。車の鍵もない、財布もな

い。水もありません。あるのは携帯電話だけ。しかも息子がアーバイトから帰ってくまのは、真夜中の12時です。ここにやっと事の重大さに気づきました。もう腕組みするしかありません。じわじわと日も沈み始め、

肌寒くなってきました。まるで映画のオープニングのようです。そして悩んで取った手段は、友達に助けてもらうことです。日曜日の夕方、きっと

家族団らんの最中だったなあ。気の毒だなあ。と思いながら電話をかけました。事情を説明すると、すぐ

に来てくれて、「ごめん」と言うと笑

つてました。高校から付き合いの

ある、いい友達なんです。それから、15キロも離れたアーバイト先の居酒屋まで連れてってもらい、長男から鍵を受けとり、無事、家に入ることが出来ました。とんだ日曜日の午後となりました。

そしてその夜に思つたのです。普段ならあんな失敗はしないのに、なぜだろ。何の理由があそき起きたのだろうと。「あ、そうか」それは妻に草むしりを言われ、嫌々していた私の心が、現実に反映されただけでした。問題やトラブルは、現実より先に心で起ります。引き寄せたのは私だったのです。

やはり妻からの頼れ事は、例外なく喜んでしないといけませんね。

また、いつも草むしりをしてくれる妻へ対して、

感謝が足りなかったのも原因だと田舎です。

ちよどした出来事から

の気づきでした。お付き合いいただき、ありがとうございました。

発行／有限会社アサム

〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36

Tel:092-321-4001 Fax:092-321-4002

専門学校&スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>

このお詫びと通信208号に書いた

このお詫びと通信は平川の分身がお客様のところへお届けに伺う。どう気持ちはあります。当然ですか無料です。

私は、イヤホンで音楽を聴きながら、

根っこから簡単に抜けます。その時家には長男がいました。気分が乗らない

うことです。日曜日の夕方、きっと

家族団らんの最中だったなあ。気の毒

だなあ。と思いながら電話をかけ

ました。事情を説明すると、すぐ

に来てくれて、「ごめん」と言うと笑

つてました。

高校から付き合いの

ある、いい友達なんです。それから、15

キロも離れたアーバイト先の居酒

屋まで連れてってもらい、長男か

ら鍵を受けとり、無事、家に入ること

が出来ました。とんだ日曜日の午後となりました。

そしてその夜に思つたのです。普段

ならあんな失敗はしないのに、なぜだ

ろ。何の理由があそき起きたの

だろうと。「あ、そうか」それは妻

に草むしりを言われ、嫌々していた

私の心が、現実に反映されただけ

でした。問題やトラブルは、現実

より先に心で起ります。引き寄せ

たのは私だったのです。

どう

う。何の理由があそき起きたの

だろうと。「あ、そうか」それは妻

に草むしりを言われ、嫌々していた

私の心が、現実に反映されただけ

でした。問題やトラブルは、現実

より先に心で起ります。引き寄せ

たのは私だったのです。

どう

う。何の理由があそき起きたの

だろうと。「あ、そうか」それは妻

に草むしりを言われ、嫌々していた

私の心が、現実に反映されただけ

でした。問題やトラブルは、現実

より先に心で起ります。引き寄せ

たのは私だったのです。

どう

う。何の理由があそき起きたの

だろうと。「あ、そうか」それは妻

に草むしりをと言われ、嫌々していた

私の心が、現実に反映されただけ

でした。問題やトラブルは、現実

より先に心で起ります。引き寄せ

たのは私だったのです。

どう

う。何の理由があそき起きたの

だろうと。「あ、そうか」それは妻

に草むしりをと言われ、嫌々していた